

# 国語科

## 1. 中学1年次での自己表現力育成のための実践指導

長谷川 弘

### 1. まえがき

本校における63年度研究大会のテーマが「自己表現」ということに決まってから、筆者は中学での「国語の授業を通しての自己表現」というものをいろいろと考えてみた。そうしてそれをもとに実践したのが、以下に述べることである。これらの実践によって、生徒の「自己表現」力が本当に養われたのか、と問われると、はなはだ心もとない返事しかできない。が、この実践をもとに、これからも中学での「国語表現」のよりいっそうの理論化、体系化を考えていきたいと思っている。

### 2. 63年度中1「国語表現」の指導経過・計画

#### (1) 読書指導とスピーチ

宿題になっている夏休み読書感想文のために、生徒全員に本の推薦文を書かせた。そして、これらをまとめて、一冊の文集として生徒に配布した。

また、それらの推薦文を授業中に発表させていった。全員には無理であったが、これをもってスピーチ指導の導入とした。その方法に関しては、今までの本校のスピーチ指導実践に則って行った。

#### (2) 夏休み自由研究

1 夏休み前に、国語科から1年間の宿題として自由研究が出された。(ほとんどの生徒が夏休み中に何をやるかを考え、夏休み明けに提出した。)

これら生徒の自由研究テーマを調べてみると多岐にわたる。が、その中でも特に「人権差別・江戸時代・お金の歴史・郵便…」などの社会的分野、「星座・昆虫・植物採集…」などの理科学的分野、その他「アメリカの戦闘機・自動車・芝居…」などの趣味的分野、以上の3分野が最も多かった。国語的分野としては「ことわざ・万葉集・奥飛騨紀行・秋田の方言・文字・漢字」などであった。

#### 2 アンケート結果

自由研究のテーマを選んだ理由として最も多かったのが、「興味あり」で、男子39%、女子45%であった。約4割強の生徒が興味・関心があって自由研究を行ったことになる。また、感想として「楽しかった」が、男子73%、女子70%もあり「楽しくなかった」を大きく引き離している。

※以上の結果から考えてみると、中高6か年における中学1年段階では、生徒の学習への動機づけとしてこの自由研究の方法をもっと活用すべきであると考えられる。

#### (3) グループ研究

##### 1 グループ研究のための準備段階

研究開始を文化祭明けの10月以降とし、9月をその準備段階とした。

まず自由研究のアンケート・作文などを通して、グループ研究に向けての生徒の意識を喚起させた。次に「報告を正確に・標識」(教育出版1年)、「調べて報告する・睡眠」(東京書籍2年)、「調査して書く・カルガモ」(学校図書2年)、などの各教科書を利用し、レポートの書き方・まとめ方を学習させた。

次に、研究テーマを生徒に示し、第三希望まで選べさせた。テーマは各教科で中1になって今までに学んだことから選んだ。次に掲げる。

テーマ

[国語的分野]・標識、ことわざ、川柳、俳句など  
[国・音]・民謡、童謡、童歌、歌謡、昔話など  
[国・英・社]・文字の歴史、古代文字、世界の言語  
[数学]・数の歴史、数について  
[理科]・植物について  
[理・社]・公害問題、自然の環境破壊について  
[社会]・古代文明、人類のはじまり、宗教  
[音楽]・世界の音楽  
[美・国・保]・空想、夢の世界、心の中  
[保健]・精神、身体の発達について  
[体育]・オリンピック、スポーツについて  
[その他]・映像文化(テレビ、漫画、映画など)  
趣味的分野として「映像文化」をテーマとして入れた。

##### 2 グループ分け・授業計画

グループ分けは、生徒の選んだテーマを尊重して行った。1クラス、5人ずつの8グループ。

決定したテーマは、  
○川柳・ことわざ  
○童謡、童話 ○公害  
○人類のはじまり ○世界の音楽  
○オリンピック(2グループ) ○映画など(2グループ)  
○古代文明(2グループ) ○宗教(2グループ)  
である。

その他、自由研究の発展として、「国旗」について調べたいという班が1つ、「宇宙」について調べたいという班が2つ出てきた。特に「宇宙」に対しては、生徒は非常に興味をもっていることが分かった。

合計6時間の授業で図書館において、調査、下書き、清書をした。その際1時間の授業が終わるごとに、班長にその時間の進行状況・調べた本などをプリント（班長に持たせてある）に書かせ提出させた。次のようなプリントである。

1 計画と進行状況（毎回、授業が終わるごとに提出）

	計 画	進 行
10/12 (水)		
13(木)		
19(木)		
26(木)		
27(木)		

2 調べた本の番号・名前・ページ数

名 前	番 号	ページ数

また予定では2時間程度の授業を使って、各班10～15分のクラス発表を行うつもりであったが、結局それはできなかった。

以上、63年度中1の国語表現の指導経過・計画を簡単ではあるが述べてみた。次はグループ研究に話題をしぼって、そのねらい・視点を考えてみたい。

3. 中1段階での国語表現のねらい・視点

(1) 「グループ」による学習

本の推薦文発表、自由研究などを行ったのは、発表することの楽しさ・研究することの楽しさを味わわせなかったからである。2学期の授業ではこれらの学習

を踏まえ、個人の発表・研究からグループの発表・研究へ発展させるために「グループ」学習を試みた。個人から集団へと問題を発展させたかったのである。

(2) レポートの書き方の学習

自由研究の提出方法は全くの自由であった（例えば植物採集でも可）。グループ学習では提出をレポート形式とした。そのため授業で各教材を使って、「動機・まえがき→本論→まとめ・感想→残った問題点」というようなレポートの基本的構成を学ばせた。そして、グループ研究を行う最初の授業の時に次のようなプリント（一部）を渡し、レポートの構成を考えさせた。

・テーマ

・調べたい小テーマの項目・調べる方法

1	図書館にある本
2	・
3	・
4	・
5	・
6	・

・小論文原稿の構成（原稿用紙5～10枚）

1	2	3	4
動機	本論	結論	残った 問題点

(3) 総合学習

1 教科（国語）内での総合化

国語表現というと、どうしても「作文」を考えてしまうのではなかろうか。しかし、表現＝作文だけではない。グループ研究ではそうした点をふまえ、調べる（読む）→写す（書く）→まとめる（話し合う）→発表（話す）などの全体の活動を国語表現としてとらえた。

2 学習内容（テーマ）の総合化

2-(2)でも述べたように、生徒の興味は広範囲にわたっている。特に社会的・理科的分野への興味が高い。

また、中学校5社の教科書に収められている説明的文章の内容を6つに分けると

(ア) 科学的読物	23%
(イ) 文化論・民族論	24
(ウ) 特殊分野・地理・歴史的分野	15
(エ) 公害	12
(オ) 言語・コミュニケーション論	23
(カ) 青春論	2

になるという。（築波大学付属駒場高校による調査）

このうち(オ)言語・コミュニケーション論が直接国語的な内容で、他は多く、理科的・社会的な内容である。特に中学1年生に、「科学的読物」が多い。こうしたことから中学、特に中1の国語表現を考える場合、各教科との関連あるテーマを自由に学習させていくべきであろう。

#### 4. 終わりに(反省・残された課題)

以上、中1のグループ研究を中心に述べてきた。最後にこれらの実践の感想・反省と残された課題を述べて終わりにしたい。

○正直言って、まずは疲れた。グループ研究は図書館で行ったのだが、生徒同士の話し合いがどうしても雑談になってしまう。少しでも目を離すと口論、けんか、それから関係のない本を読んだり、走り回ったり、生徒のそれらありあまる力をいかに知的関心へと向かわせるのか。教員の方にも相当のエネルギーを必要としよう。

○提出されたレポートを読むと、ほとんどが調べた本の丸写しであった。これは最初からある程度予期していたが、もう少し調べたものを「まとめ」させたかった。そのためレポート作成指導時に「写したり、引用するときは出典を明らかにすべし」ということが全く守られていなかった。生徒にとっての「調べて書く」＝「写す」という意識を少しずつなくしていかなければならない。

○調べるさい、小テーマごとに分けさせ、各自分擔させた。そのためレポートも、その各自が調べたものをつなぎ合わせるだけのものとなり、つながりのおかしいものが多かった。これは最後のまとめの段階での指導がやや不十分であったためであろう。

○生徒自身に書かせ、考えさせるため、レポートの最後に「結論」の部分の設けさせた。しかしこれが「感想」となってしまう、それも、グループ全員で話し合い一つにまとめるよう指導したのだが、ほとんどが各自一人一人の感想で終わってしまっていた。これもまとめの段階での指導の問題になるが、授業時間の調整とも絡み合わせ、今後の課題であろう。

○予定としては各グループに発表させるつもりであった。また発表用に、調べたことをB紙にまとめさせた。しかし、いざ発表させてみるとグループの何人かがそのB紙を持って、一人がレポートを読むだけというふうになってしまった。筆者としては自分の小学校時代の学芸会などの経験から、それぞれおもしろく発表するものだと期待していたが、全くあてがはずれてしまった。発表の仕方自体も教育しなければならないのだと痛感した次第である。

そういうわけで発表は図書館前に掲示するだけで終わってしまった。発表(話す)をもって総合学習的なグループ研究の完結と思っていただけに、筆者にはこの失敗が大きな課題として残った。

○最後にレポートの中の生徒の感想を紹介して終わりたい。

〈生徒感想〉

中1 A 藤松 洋子

私達(古川・堀部・深田・藤松)は太陽のことを調べるために名古屋市科学館へ行ってみました。プラネタリウムを見てから4階の太陽クイズのある所へ行きました。太陽クイズはとてもおもしろくて、長い間やっていました。最初はわからないものばかりでしたが、だんだんわかるようになりました。ひでりの言葉の由来や太陽にある黒点を目でみることができるとか、いろいろありました。でもいざ図書室の本で調べると難かしい言葉や図がたくさんありました。でもなんとか解説してやっと原稿も書けました。班内でいろいろな問題もあったけれどとてもいい勉強になりました。

中1 B 石橋 正明

ほくたちは、外国の昔のことを調べたけど、はじめのうちは、ぜんぜんおもしろくなくて、いやいやしていたけれど、やっているうちにだんだんおもしろくなって、のめり込んでいました。ほくはエジプト文明のことについてやったんだけど、少し調べただけなのになぞの連続で、いちどエジプトというところに行きたくなったぐらいです。また機会があれば調べたいと思います。